



2019年12月21日～2020年1月3日

2020年1月6日

先々週・先週の回顧

ブラジル・レアルは、対米ドルで上昇した一方で、対円では下落しました。また、2年国債金利は低下しました。

年末年始の休暇により薄商いのなか、為替や金利は小幅な動きとなりました。

先々週は米中通商交渉の進展期待により、投資家のリスク選好姿勢が高まり、ブラジル・レアルは上昇しました。その後は、クリスマス休暇で取引参加者が減少し、動意薄の展開となりました。しかし、今年に入ってから、米国がイラン革命防衛隊司令官のソレイマニ氏を殺害し、イランが報復宣言を行ったことから中東の地政学リスクが高まり、先週末にかけてブラジル・レアルはやや売られる結果となりました。

経済指標に関しては、11月の基礎的財政収支の発表があり、概ね市場予想通りで材料視されませんでした。また、製造業PMI指数の発表もあり、先月より低下したものの、景況感の改善と悪化の分岐点である50を上回る結果となりました。

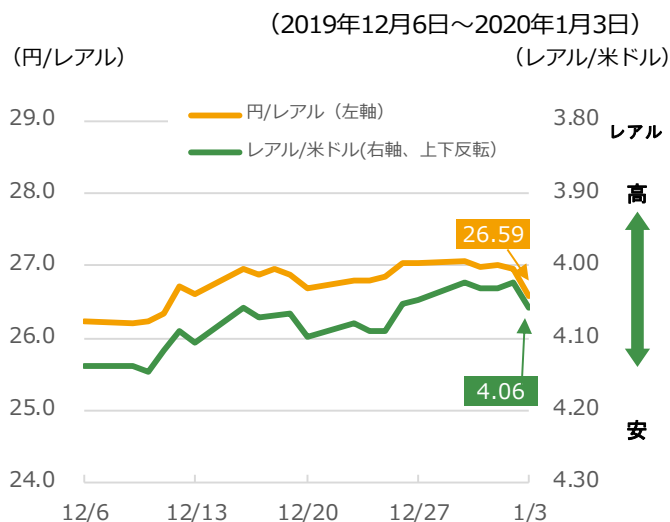
今週の見通し

今週は鉱工業生産やIPCAインフレ率などの経済指標の発表が予定されています。

ブラジル国内の各種経済指標が底堅い結果を見せていることや、税制改革法案の審議の進展期待が高まっていることはブラジル・レアルの下支えになると考えられます。

一方で、米国はイランとの対立を深めるなど中東の地政学リスクが高まっており、動向を注視する必要があると考えられます。

ブラジル・レアル 為替推移



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

ブラジル 金利推移



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。